

「天災は忘れた頃にやってくる」が物理学者の口癖だった

「吾輩は猫である」に登場する物理学者

夏目漱石が明治後期に発表した「吾輩は猫である」に、主人公の苦沙弥先生の元教え子で理学士の「水島観月」なる人物が登場します。そのモデルが物理学者の寺田寅彦でした。

実際、寅彦は漱石の元教え子で、最も初期の門下生でした。漱石が1896年(明治29年)から約5年間、熊本県の第五高等学校(熊本大学の前身)で英語の教師を務めていた時、教え子の寅彦は大いに感化され、漱石を担いで俳句結社を結成。漱石の親友である正岡子規が主宰する雑誌にも俳句を投稿するほど熱中しました。のちに漱石が作家として独立し、寅彦が東京帝国大学で研究生活をおくるようになってからも二人は親しく交流し、漱石にとって寅彦は特別な存在となりました。



寅彦は漱石を文芸の師と仰いだ

日本におけるX線結晶解析のパイオニア

寺田寅彦は1878年(明治11年)に高知県土族の長男として東京で生まれ、幼年期に郷里へ転居し、中学まで高知市で過ごします。進路を決定づけたのは、熊本五高での二人の教師との出会いでした。一人は夏目漱石、もう一人が物理学の田丸卓郎(後に東京帝国大学教授)です。田丸の授業によって物理学の面白さに魅了された寅彦

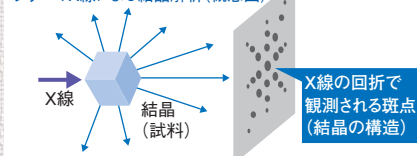


寺田寅彦は上野の喫茶店で関東大震災に遭遇

は、東京帝国大学理科大学に入学し、長岡半太郎らの教えを受けて実験物理学科を首席で卒業。大学院、講師、助教授とキャリアを積み、31歳でベルリン大学に留学し、38歳で教授に就任します。

この間、ドイツの物理学者ラウエが薄片にした結晶にX線を照射して映し出された斑点を写真撮影し、結晶が格子構造であることとX線が短い波長の電磁波であることを同時に実証しました。これに刺激された寅彦は、医学部で廃棄されたX線装置を修理して蛍光板を用いた実験装置を作り、肉眼で斑点を観察できるよう改良。「X線の結晶透過」という論文をネイチャー誌に発表し、その業績により帝国学士院恩賜賞を受賞しました。

ラウエのX線による結晶解析(概念図)



身近な不思議を科学でひも解く「寺田物理学」

寅彦の研究対象は幅広く、「尺八の音響学」で学位を取得したかと思えば、地球物理学(地震・測地・火山・気象)の研究で留学し、X線による結晶解析で成果を上げ、さらには墨流しや金平糖の角のでき方、ひび割れのでき方、タンポポの実が浮遊する仕組みなど、ユニークなものも少なくありません。これらは、ある研究課題を追求する過程で浮かんだテーマですが、寅彦が「形のでき方」に強い関心があり、同時に身近な不思議を科学的に探ることを重視した現れでもあります。こうした研究姿勢は、いつしか「寺田物理学」と呼ばれました。



そんな寅彦が1923年(大正12年)9月1日の関東大震災に遭遇したのは上野の喫茶店でした。あわてて外へ飛び出す客や店員をしり目に、激しく揺れる店内に居残り、冷静に現象を観察したそうです。そして、調査委員会の一員として壊滅した首都を調査し、3年後に設立された東京帝国大学地震研究所の所員として地震や火災旋風の研究に取り組む一方、講演や随筆を通して防災への啓発に力を注ぎました。

名文筆家として知られる寅彦ですが、「天災は忘れた頃にやってくる」という警句は、著書に記したものではなく、口癖のように人々に説いたことが口伝で広まったものです。

今後の行事予定 詳細・参加希望については、当会ホームページまたはTEL052-223-6616までお問い合わせください。

■ 情勢講演会 【本部開催】 主催:中部原子力懇談会 本部 **参加費無料**

開催日	場所	演題	講師
2020年2月28日(金) 14:30~17:00(14:00開場)	豊橋商工会議所ビル 9階大ホール	改めて原子力を検証する ～原子力なしで人類は生き残れるのか?～	ならばやだし 奈良林 直氏 【東京工業大学 特任教授】
開催日	場所	演題	講師
2020年3月17日(火) 15:00~17:00(14:30開場)	名古屋商工会議所 2階ホール	世界は、CO ₂ ゼロを目指す ～パリ協定の「気候正義」をどう理解すべきか～	やすい いたる 安井 至氏 【持続性推進機構理事長・東京大学 名誉教授】

※受付中

※受付中

中部原子力懇談会

〒460-0008 名古屋市中区栄2-10-19 名古屋商工会議所ビル6F
TEL:052-223-6616 FAX:052-231-7279
<https://www.chugenkon.org>

放射線出前教室・出張授業を実施します。お気軽にお問い合わせください。詳しくはHPをご覧ください。

ホームページから本誌の定期送付のお申し込みが可能です。

この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に使われます。



この冊子は地球環境保護のため、植物性大豆油インクを使用し、有害な廃液の発生が少ない水なし印刷をしています。



特集 福島から学びたい

福島第一原子力発電所事故による健康影響

放射線以外の健康被害と対策

CHUBU GENSHIRYOKU KONDANKAI シープレス

C-press

これはな～に?

詳しくは4ページをご覧ください

エネルギーサイト
訪問記

第19回

先進のハイブリッド式
自然エネルギー発電

たはらソーラー・ウィンド発電所

(愛知県田原市)

社会で役立つ放射線15

電子線照射で医療器具の滅菌や
人工関節の摩耗を抑制

vol. 117

2020年2月発行(年3回刊)

発行/中部原子力懇談会
名古屋市中区栄2-10-19 名古屋商工会議所ビル6F

福島第一原子力発電所事故による健康影響

放射線以外の健康被害と対策



東京慈恵会医科大学
臨床検査医学講座講師
相馬中央病院 非常勤医師
大町病院 非常勤医師

おち さえ
越智 小枝氏

東京医科歯科大学医学部医学科卒業（医師、公衆衛生修士、医学博士）。国保旭中央病院で研修後、2002年に東京医科歯科大学膠原病・リウマチ内科に入局。07年より東京都立墨東病院リウマチ膠原病科医師・医長を経て、11年10月インペリアルカレッジ・ロンドン公衆衛生大学院に入学。12年9月に卒業後、福島県相馬中央病院に勤務。17年より現職。

※特集記事は、2019年9月に開催した情勢講演会をもとに、シープレス編集部が再構成しました。文中のデータ等は講演会当時のものです。

大災害による「負の連鎖」が引き起こす弱者の健康被害

福島第一原子力発電所事故による住民の健康問題では、放射線影響だけが注目されましたが、それ以上に問題なのが避難や避難生活がもたらした肉体的・精神的な健康被害です。これは福島に限ったことではなく、例えば2015年のイエメン内戦では、治安悪化でゴミ回収ができず、下水道も破壊されたなどの要因で2年後にコレラが大流行し、80万人が感染して2,000人以上が亡くなりました。2014年～15年に流行した西アフリカの Ebola 出血熱では、医療従事者が死亡したり避難したことやデマにより「病院こそ危険」という風評が立ち、母子保健や感染症の診療が停止して、Ebola 出血熱を上回るマラリアによる死者が急増しました。

大災害や紛争では、社会インフラの崩壊による「負の連鎖」が生じて、高齢者・子ども・病人などの弱者が深刻なダメージを受けるのです。

◆大災害における負の連鎖



1 初期避難での健康被害と対策

原子力発電所の事故後ほどなく、20km圏のある村に防護服を着た警察官が現れ、村内放送で「全員避難」の指示が流れ、30分以内に700人がいなくなりました。誰もがすぐに村へ戻れると思ったので、寝たきり高齢者の枕元に握り飯を置いて逃げた家庭もあり、後刻、避難した家族の連絡で救急隊が救出しました。まさにパニック状態だったのです。

また、放射線防護のため屋内退避指示が出た区域では、人・モノ・情報が断絶された中で独居老人や病人が取り残され、ここにはレスキューも入らず「家の中で衰弱死したお年寄りが何人もいた」と検死ドクターから聞きました。

国会事故調報告書によれば、原発から20km圏内の7病院にいた850名の患者が避難しましたが、3月末までに60名が死亡し、そのうち少なくとも10名が移送中に死亡と記されています。実際、南相馬市の長期療養施設の患者のうち、避難した施設の方がしなかった施設より死亡率が増加しました。



原発から9kmの病院では、今も避難当時の混乱状態をとどめている。(撮影:越智小枝氏)

平時から「インフラの強化」や「弱者の見える化」を

事故直後から原発には多くの人や物資が投入されましたが、避難区域のすぐ外側では人・モノ・情報の流通が停滞し、弱者の逃げ遅れや孤立が発生しました。もし発電所と地域住民との情報共有ができていれば、現場と避難区域外の往来途中で弱者を救出できたかもしれません。その体制づくりは平時でも移動手段の少ない交通弱者対策のヒントになるはずです。その一環として、南相馬市では、ドローンによる物資の輸送実験を行っています。

また、相馬市では独居高齢者の名簿を作成して所在を見える化し、自治体に緊急用の担架を配りました。その後この名簿をもとに、バリアフリーの高齢者用集合住宅（通称:復興長屋）を建設し、緊急時にはここに集まって救急隊を待つ体制も整えました。これらは平時の孤独死対策にも有効です。

◆一番の被害は、避難区域のすぐ外側の流通停止



相馬市の復興長屋



2 長期の避難による健康被害と対策

仮設住宅で避難生活する方々の健康リスクは、どうでしょう。①運動不足（狭い家、クルマへの依存、農・漁業ができない）②食生活の変化（野菜・魚の摂取減少、コンビニの品揃えが変化、スーパーが遠い）③精神状態の悪化④コミュニティの崩壊の4つが主なリスク要因で、特に高齢者や既往症のある方への影響が顕著です。畑を耕したり漁をする中で日常的に身体を動かし、徒歩や自転車で買い物していた人たちが、その場を失い、遠いスーパーへクルマで買い物していれば、運動不足に陥ります。実際、2012年の仮設住宅の健診では、避難しなかった地区に比べて肥満・高血圧・糖尿病患者の割合が高く、足腰の弱っている高齢者が目立ちます。

◆相馬市の仮設住宅健診（2012年、65歳以上）

	仮設住宅	避難しなかった地区
参加者の人数	291	183
肥満の人数(%)	125 (43.0%)	59 (32.2%)
高血圧(%)	77 (26.5%)	29 (15.8%)
糖尿病(HbA1c>6.1%)(%)	33 (11.3%)	12 (6.6%)

増分の糖尿病による発がんリスクは放射能よりはるかに高い
相馬市データ:石井武彰医師ら

	仮設住宅	仮設以外
開眼片足立ちテスト15秒以下	男 64% 女 66%	31% 33%

災害 前の健康促進が重要

震災から1年後までの災害関連死のうち「95%以上が60歳以上で、7割近くが既往症あり」というデータがあります。つまり災害関連死を減らす一番の方法は、平時の既往症の改善・予防です。相馬市の高血圧患者の調査（2011～14年）では、震災前より患者数は多少増えたものの健康診断の強化で治療する人が増え、コントロールの悪い患者数は減りました。やはり日頃の町ぐるみの健康促進が、何より重要なのです。



町ぐるみの健康促進活動

3 子どもへの健康影響と対策

子どもへの健康影響で心配されたのが放射線による甲状腺がんや白血病でしたが、私が懸念したのは避難生活による「適応障害」です。これは環境変化に適応できない精神疾患で、情緒不安や異常行動を引き起こします。ストレスの原因を取り除けば治るのが特徴ですが、避難生活が数年間も続けば影響は軽視できません。また、幼稚園ではコミュニケーション能力の形成に重要とされる「砂遊び」が禁止され、花を摘んできた園児が放射能汚染を恐れたお母さんに捨てられたといった事例もあります。

もう一つの問題が「肥満」です。震災と原発事故による運動制限やストレス、食生活の変化が要因と考えられますが、2011年を境に福島県の小学校低学年の肥満率は急激に高まりました。相馬市の小学生スポーツテストでも、俊敏性や持久力などの運動能力が明らかに低下しました。

このような経験をした子どもの将来に起こり得る健康影響は、どのようなものでしょう。肥満や運動不足は、がん・心血管疾患のリスクを高め、場合によってはPTSD（心的外傷後ストレス障害）や社会に適応できないことで生じる経済格差やこれに伴う健康影響が心配されます。

「させてあげる」支援で、トラウマ後の人間的成長を

災害などのトラウマによって恐怖が続くPTSDに対し、トラウマの回復過程で人間的に成長するPTG（ポスト・トラウマティック・グロース）という概念があります。例えば、災害をきっかけに「他人のために役立ちたい」と考えるような事象です。それには誰かに「してもら」支援だけでなく、本人に「させてあげる」環境や制度を整えることが大切です。被災地の子どもたちのキャリアアップ支援や被災地に医療系の学部を設置するなどが一例で、これらは被災地の医療過疎対策にもつながります。



まとめ

私が福島で学んだのは、原発事故で起きた健康影響は、放射線以外の要因で起きた被害の方がはるかに大きいことでした。しかも、放射線だけが注目され、それ以外の影響から住民の健康を守るための有効な災害対策が出来ていないことです。ただ、原発事故による避難や避難生活の在り方について考えることは、大きな自然災害が頻発する日本で、健康な社会づくりを考える好機でもあり、多くの方々に「自分に何ができるのか」を真剣に考えていただきたいと思います。



ナビゲーターの
ゴンです
中原聰(チューゲンコン)の
忠犬ゴンが、
しっかりリポートして
ご紹介します。

先進のハイブリッド式自然エネルギー発電 たはらソーラー・ウインド発電所

(愛知県田原市)



三河湾に面した工業地帯に立地する「たはらソーラー・ウインド発電所」

表紙の
写真は
コレ!

国内最大のハイブリッド式発電所が誕生した理由

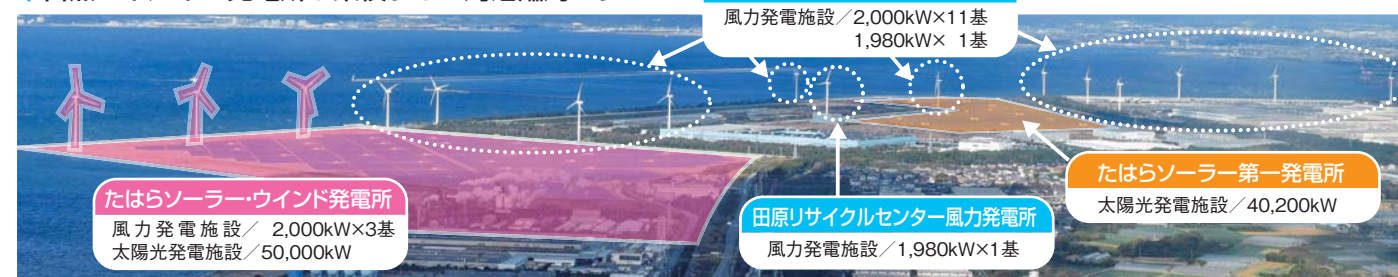
渥美半島のほぼ全域を占める田原市は、年間日照2,200時間、平均風速6~7m/秒の自然エネルギー源を活かす「たはらエコ・ガーデンシティ構想」を掲げ、官民あげて太陽光・風力発電の普及を進めています。中でも大規模な自然エネルギー発電所が集積する三河湾臨海エリアで、ひととき存在感を放っているのが、国内最大のハイブリッド式発電を実現した「たはらソーラー・ウインド発電所」です。そこで、この開発を主導した三井化学(株)の理事/次世代事業開発室長の善光さんに目的や意義を伺いました。



三井化学(株)
理事/次世代事業開発室長
善光 洋文さん

「当社は20年以上前に田原市に工業用地を取得しました。その後、未利用地の有効活用を検討する過程で、再生可能エネルギー発電に注目しました。一方、太陽光パネルに使われる封止材の製造販売で30年以上の歴史があります。封止材は太陽光パネルの性能や耐久性に直接影響する重要部材で、製品改良のために行っていた故障パネルの解析によりパネルの劣化原因と寿命予測が可能になりました。

◆自然エネルギー発電所が集積する三河湾臨海エリア



写真の左側にも「たはらソーラー第二発電所」「メガソーラーたはら発電所」「田原4区風力発電所」があり、合わせて風力37,960kW、太陽光145,900kWの再生可能エネルギー設備が集中立地しています。

日照 2,200時間/年 平均風速 6~7/秒 特別高圧送電線 敷設済み

軟弱地盤・強風・塩害・騒音への対策に注力【図1】

軟弱地盤の改良

用地は埋立地で地盤が軟弱なため改良が必要ですが、メガソーラーの敷地面積が60万㎡と広大で(モジュール21万4,560枚)、コンクリートで敷き詰めれば費用は莫大になります。そこで、セメント粉を土壌と混ぜて補強する工法で、コストを抑えました。

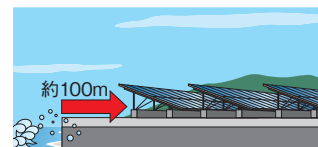
強風対策

平均6.7m/秒の風にさらされるため、太陽光パネルの設置高を1.2mと低く、傾斜角は10度に設定しました。



塩害対策

海水のしぶきが風で飛来するため、太陽光発電設備を海から100mほど後方に設置し、パネル架台には高耐食性のメッキ鋼板を採用しました。



騒音対策

風力発電装置の風車が回る時の音は、広大なメガソーラーが周辺住宅地との緩衝スペースとなり、騒音問題は発生していません。

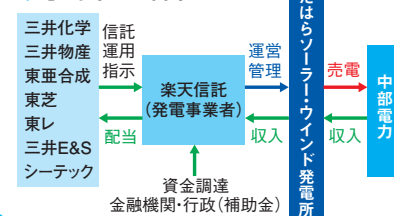


この技術を活かし太陽光発電の診断ビジネスを展開していますが、たはらソーラー・ウインド発電所は、そのビジネスの一環と位置付け、4種類の太陽光パネルを設置して耐久性を検証しています。今後は蓄積したデータを活用し、成長著しいインドにも診断ビジネスを展開します。

7社が得意な技術・ノウハウを持ち寄り建設・運営

事業化にあたっては、日照と風況を最大活用する「メガソーラー+風力発電のハイブリッド方式」(最大出力5.6万kW)とし、三井グループ6社に中部電力の子会社を加えた7社が事業参画し、得意な技術を持ち寄り建設・運営することになりました。発電した全量は20年間にわたり中部電力に売電(単価 太陽光:40円/kWh、風力:22円/kWh:税別)されます。そして、売電事業の経験が豊富な信託会社に資金調達や運営などを託す「金銭信託」方式を採用し、総事業費180億円のプロジェクトがスタート。地元への説明会を重ねて2012年11月に着工し、立地の特性や環境規制に適應するよう様々な工夫を施し【図1】、14年10月に営業運転を開始しました。

◆事業化の枠組み



きめ細かい保守・管理を徹底して発電能力を維持

広大な発電所のメンテナンスを担当する楽天信託の服部さんと三井化学名古屋工場の藤田さんに伺いました。「数名の常勤者が手分けして太陽光パネルを1枚1枚巡視しています。ここは発電システムの評価・分析ノウハウを蓄積する実証サイトでもあるので、4種類のパネルを設置していますが、稼働当初は不具合が発生



楽天信託(株)
たはらソーラー・ウインド発電所
服部 勲さん



三井化学(株)名古屋工場
管理部 工場企画グループ
藤田 和人さん

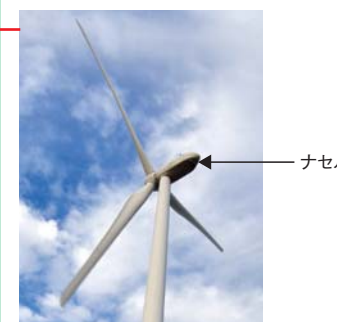


発電量
約8,000万kWh
田原市の家庭電力
使用量の全量相当

CO2削減量
約3.2万t
約230万本のスキの
CO2吸収量に相当



鳥糞の除去作業(出所:楽天信託)



羽根の長さ40m、高さ80mの巨大風車。ナセルという部分が回転することで、あらゆる方向の風を正面から受け止めて効率よく発電。

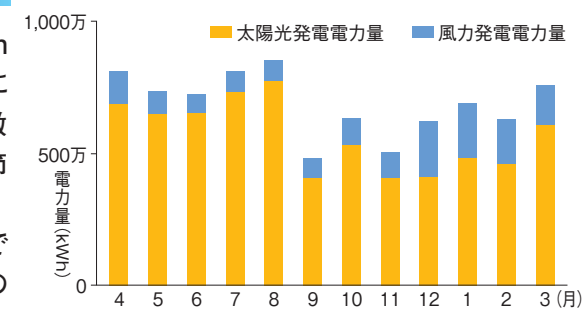
ナゴヤドーム12.5個分の敷地に約21万枚設置された4種類の太陽光パネル。発電効率や耐久性などを検証・分析。

田原市の家庭電気使用量の全量分を発電

設計段階では、太陽光・風力を合わせた年間発電電力量は6,750万kWhを見込んでいましたが、実績は順調に推移し、2018年度は約8,000万kWhに達しました。これは田原市の総世帯(約2万2,000世帯)の電力使用量に匹敵します。設備利用率は、太陽光発電が約15%、風力発電は26%ですが、季節によって風力発電は5割程度にもなるそうです。

三井化学では「たはらソーラー・ウインド発電所」は、技術面でも運営面でも、今後の自然エネルギー発電のモデルケースと位置づけ、蓄積した種々のデータを分析・評価し、製品開発・コンサルティング・他社との連携などに役立てています。

◆ 発送電電力量(2018年度)



*日照量の少ない冬場によい風が吹くことで、ハイブリッド発電所の効果を発揮しています。

電力会社グループで唯一 電子照射サービス事業を展開

若狭湾に面したJR美浜駅近くにある「関西電子ビーム(株)」は、電子線を照射させて器具や容器などを滅菌したり、材料の分子構造を変化(改質)させて性能を高める事業を行っています。同社は福井県が進めるエネルギー研究開発の拠点化計画の一環として、関西電力が99%出資し、2008年(平成20年)に設立され、11年に操業を開始しました。電力会社がグループ会社を設立し、このような照射サービス事業を展開する例は国内唯一です。

取材では、事業所長の上野さん、技術担当の川島さん、総務・営業管理の大江さんにお願いいただきました。「電子線照射は、タングステンを熱して熱電子を発生させ、これを高電圧で加速させて電子ビームとして物質に照射します。すると電子が物質を通過する時に、電子の大きなエネルギーが物

質に作用します【図1】。私たちは、その働きを利用します。電子線は電荷を持つ粒子線で放射線の仲間ですが、発生源に放射性物質は使いません。また、電子線は段ボール箱や包装などを透過するため、箱詰めのまま照射して滅菌や材料改質ができ、短時間で効率的に処理できます」。

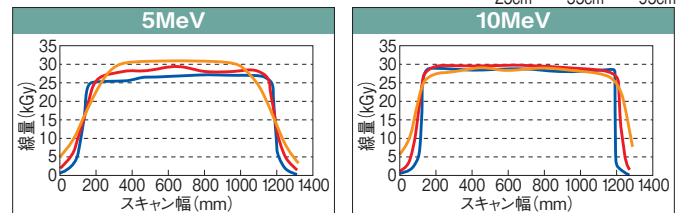


左から総務・営業管理部長 大江 英行さん、事業所長(兼品質管理部長) 上野 吉基さん、技術部長 川島 崇利さん

商業用で国内最大10MeVのエネルギーを持つ電子加速器

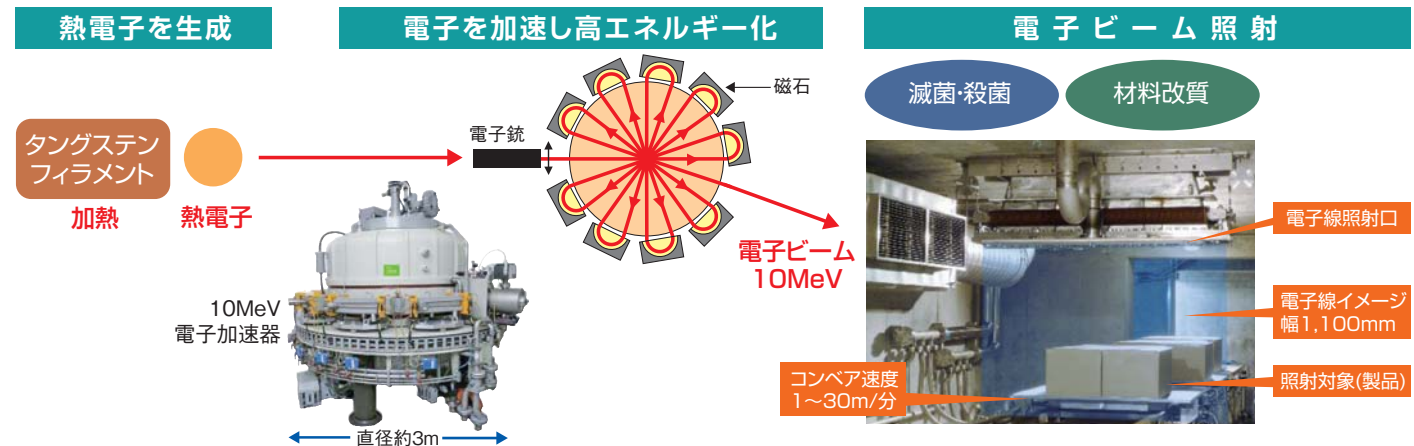
同社の強みは、何といても商業用では国内最大のエネルギー出力を持つ「電子加速器」(ベルギーIBA社製)を導入したことです。この加速器は、電子銃から発射された電子を周囲に配置した磁石によって加速しながら往復をくり返し、10MeV(メガエレクトロンボルト=1,000万エレクトロンボルト)に加速された電子線となって製品に照射されます【図1】。それまで国内の電子線照射施設では加速エネルギー5MeVがせいぜいでしたが、これを2倍に高めたことで、2倍の透過力と、均一な照射幅(1,100mm)により、多くの製品が1回照射で完結できるようになりました。また、電子線は滅菌にかかる処理時間が短いことが特徴で、ガンマ線の処理時間の1千~1万分の1(数秒から数分)で照射が完了するため、材料の劣化、着色、臭気といった影響も少なくなります。

◆ 5MeVと10MeVとの比較



10MeVの電子線は5MeVの電子線に比べ、空気による散乱が少ないため透過力が大きく、上下方向、横方向の透過性が均一で優れている。

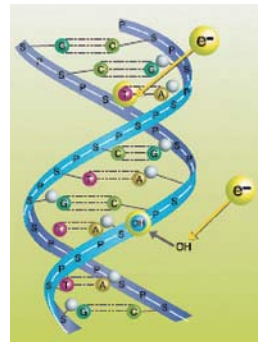
◆ 電子線照射の仕組みと流れ【図1】



滅菌

高く積まれた照射待ちの段ボール箱(製品)を見上げながら電子線滅菌の特徴をお聞きすると、「ガンマ線などと同じ放射線滅菌法の一つで、発熱や残留毒性がありません。滅菌とは物質中のすべての微生物を殺滅または除去することで、電子線照射によって微生物の遺伝子(DNA)や細胞がダメージを受けて死滅します。電子線滅菌を使えば、使い捨て医療器具やガーゼ類、目薬やコンタクトレンズ洗浄液の容器、ペットボトルのキャップやノズルなどを短時間で大量に処理できます。また、無菌試験による判定の必要がなく、照射後すぐに出荷できます」とのことでした。

◆ 滅菌処理の対象物(例)



電子線が細菌などのDNAを損傷させるイメージ

改質

では、もう一つの事業の柱である「材料改質」とは?「電子線を樹脂などの高分子材料に電子照射すると、分子構造が変化して改質され、強度や耐熱性が増したりします。身近なところでは人工関節の長寿命化に貢献しています。樹脂製の人工関節は、長期間の使用による可動部の摩耗により取り換え手術が必要となる場合があります。そこで電子線照射による改質で樹脂の耐摩耗性を高め(架橋作用)【図2】、従来品に比べ、製品の長寿命化が図れます。その他に、半導

◆ 材料改質の対象物(例)



受入れから照射・検査・出荷まで流れるように

事業所では、ほとんどの製品を段ボール箱に入った状態で受け入れます。受入検査後の製品は、段ボール箱に入ったままの状態コンベアに載せられ、製品ごとに異なる条件で電子線が照射されます。あらかじめ指定された段ボール箱には線量計が貼付されるとともに、すべての段ボール箱に電子線で変色するマーカーが貼付されるので、照射の有無が一目で判別できます。検査工程では、照射記録に基



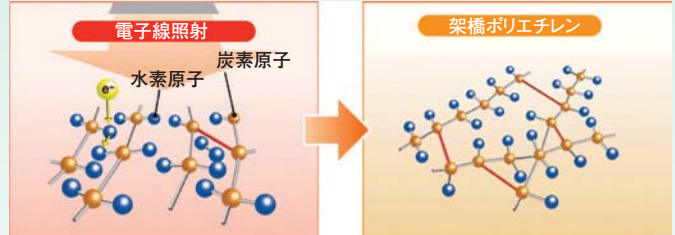
照射室の様子をモニターで監視



照射線量を評価するため段ボール箱に貼付している線量計

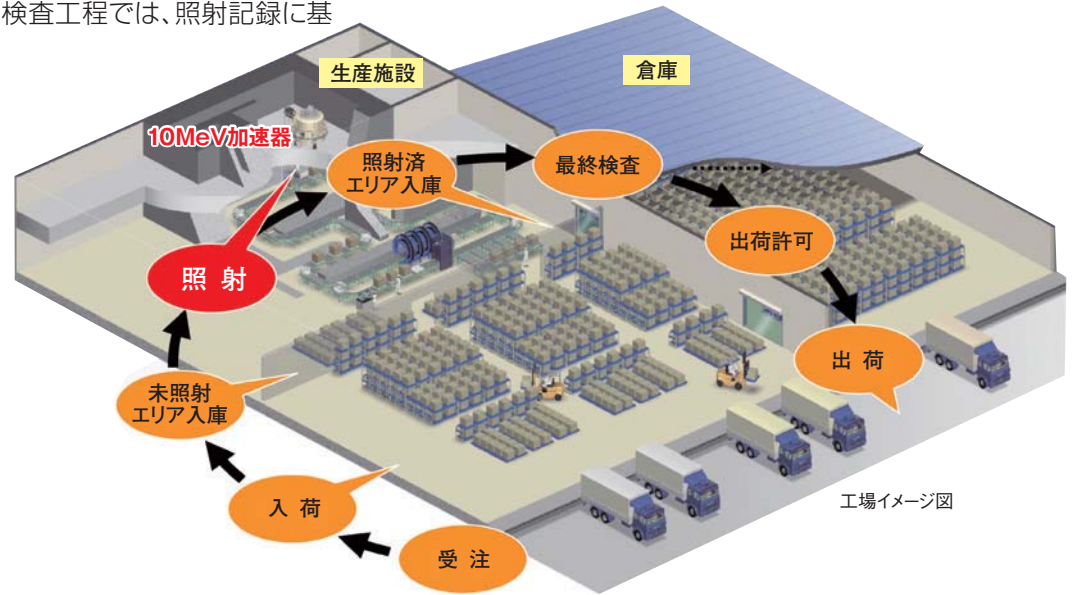
体素子の製造過程における素子特性の制御・改善、溶剤を使わずに樹脂を硬化、新たな特性を加えるグラフト重合などがあります。照射量によって期待される効果が予測できる滅菌とは異なり、改質は「狙った特性を得るためにトライ&エラーを繰り返しながら最適値を探ります」とのことです。

【図2】



- 架橋・分解／電子線の照射により、分子に直接エネルギーを加え分子を架橋(接合)させたり分解させたりすることができます。これにより材料の耐熱性や強度を向上させます。
- グラフト重合／グラフト(接木)重合とは幹となるポリマー(高分子の有機化合物)に異なる形の枝ポリマーやモノマー(単量体)を重合させること。これにより素材の特性を損なうことなく、新たな機能を付与できます。

づき照射証明書が発行され、出荷の指示に基づき製品が出荷されます。顧客の希望で急いで照射する時には、朝入荷して当日出荷する場合もあるそうです。また、装置を緊急停止する必要性が生じた際には、スイッチを切るだけで直ちに装置は停止します。なお、事業所には微生物実験室も備え、無菌試験や微生物汚染測定なども行っています。



What's Up?

そこが知りたい! 浜岡原子力発電所のいま

ここにフォーカス! 全社防災訓練を実施しました

浜岡原子力発電所では、原子力災害を想定し、発電所内のすべての緊急事態対策組織が参加する訓練を年2回実施しています。2019年11月29日には、南海トラフ大地震により震度7の揺れが発生した後、3~5

号機が同時に被災することを想定した訓練が行われました。この訓練には原子力災害に対する対応能力の強化を目的に、発電所だけでなく中部電力(株)の本店・支店等の各部署から約1万人の社員が参加しました。

